

ため池浸水想定区域図をご覧になる前に

●ため池について

ため池は、農業用水源として利用されていますが、雨水を一時的に溜め、洪水を調整する機能がある他動植物の生態系保全等にも役立っています。

一方で、決壊すると大きな災害につながる危険性も併せ持っています。



●ため池浸水想定区域図作成の趣旨・目的

近年、集中豪雨等により、国内でもため池が決壊し、甚大な被害も発生しています。

ため池浸水想定区域図は、大規模地震や集中豪雨等により、万一ため池の堤体が決壊した場合の浸水範囲を予測し、地図上に示したものです。

浸水範囲を予測しておくことで、災害に備え、避難方法や避難経路を確認するなど、迅速な避難や災害対応の基礎資料としていただくためのものです。



●ため池浸水想定区域図の作成条件

町内の「防災重点農業用ため池」※を対象として作成しています。

浸水想定区域は、雨量や震度に関係なく、ため池の堤体が満水の状態で決壊し、その貯水量の全量流れ出した場合、地形データや現地調査等に基づき、どこまで浸水区域が広がるかを計算した浸水の最大予測範囲となります。

※「防災重点農業用ため池」とは

平成30年7月豪雨を踏まえ見直しを行った新たな基準により、令和元年に都道府県が再選定を行ったもので、寄居町では25箇所のため池が指定されています。(令和2年6月現在)

防災重点農業用ため池の選定基準

- ①ため池から100m未満の浸水区域内に家屋、公共施設等があるもの
- ②ため池から100m以上500m未満の浸水区域内に家屋、公共施設等があり、かつ貯水量1,000 m³以上のもの
- ③ため池から500m以上の浸水区域内に家屋、公共施設等があり、かつ貯水量5,000 m³以上のもの
- ④上記①～③以外で、地形条件、家屋等の位置関係、維持管理の状況等から、都道府県又は市町村が必要と認めるもの

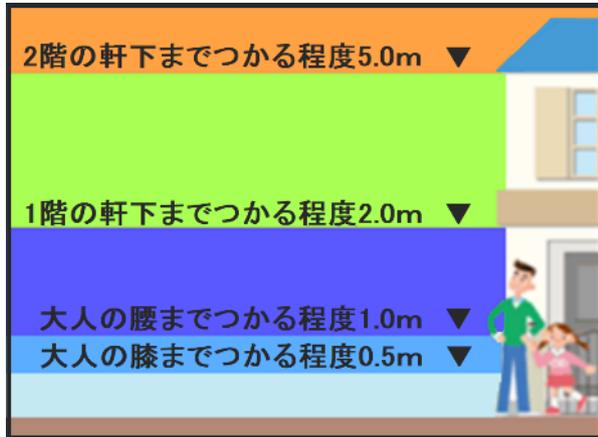
●ため池浸水想定区域図の見方

・想定される浸水の深さ

浸水想定区域内の浸水の深さを色分けして地図上に表示しています。

流速のある中で、浸水の深さが0.5m以上になると歩行が困難になることや、2階や屋根の上に避難することも考慮した色分けとなっています。

【浸水の深さの目安】



☞最大水深が深い場所での浸水や避難が遅れたときを想定し、建物の2階以上への避難（垂直避難）も検討しておいてください。

・歩行困難度

流速と浸水の深さの予測に基づき、歩行が「可能」、「困難」、「不可能」に色分けして表示しています。

【浸水深と歩行不可能なケース】

浸水深	浸水の目安	流速との関係
0.5m	大人の膝までつかる程度	流速が1.5m/秒を超えると歩行不可能
1.0m	大人の腰までつかる程度	流速が0.5m/秒を超えると歩行不可能
2.0m以上	1階軒下までつかる程度以上	歩行不可能

(出典：農林水産省「ため池ハザードマップ作成の手引き」)

・浸水の到達時間

対象となるため池からの浸水が到達する時間（単位：分）を、点線で地図上に表示しています。

●ため池浸水想定区域図を活用した早めの避難を

浸水が始まってからの避難行動では、安全な避難ができなかったり、浸水の深さ等によっては、避難自体ができなくなる可能性もあります。

ため池浸水想定区域図の情報を基に、地震発生時や豪雨が降るときには、早めの判断と速やかな避難行動につなげてください。

また、地震や豪雨時には、絶対に、ため池には近づかないでください。

